

市立病院だより
ほほえみ

発行 越谷市立病院
 発行人 院長 津村 秀憲
 編集 院内情報誌編集委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-47-1
 電話 048-965-2221 (代)
 F A X 048-965-3019
 発行日 平成25年3月 (No.15)

「病棟の再編」

について

事務部長 野口 晃利

現在、当院では4―2病棟をはじめ各所で改修工事を行っています。これは第二期中期経営計画に掲げた「病棟の再編」に基づき、各病棟の診療科の組み合わせや病床数を見直し、多様な医療需要に応えられる効率的な病床運用と快適な療養環境を提供することを目指しています。これに伴う改修工事により、4―2病棟が4―1病棟へ、4―1病棟が8―1病棟へと一時的に引越しをしており、大変ご迷惑をお掛けし申し訳ございません。しばらくの間、ご容赦いただきたいと存じます。

「病棟の再編」の主な内容は、4階を産科・婦人科をはじめとする女性専用病棟にすること、及び内科と呼吸器科の病棟を7階と8階に分離することなどに伴い、各病棟の診療科の組み合わせを再編成するとともに、重症室や個室も整備するものです。

4階は、4―1病棟を婦人科と他科の女性専用病床とし、4―2病棟を産科とします。要望の多かった婦人科と産科の病棟を分離するとともに、他の診療科の女性患者さんの病床を確保することで、4階を『女性専用病棟』と位置付け、男性に気兼ねすることなく、治療に専念することができるようになります。

7階と8階は、これまで一緒だった内科と呼吸器科を分離し、7―1病棟は内科と泌尿器科に、8―1病棟は呼吸器科と耳鼻咽喉科という編成になります。8―1病棟には感染管理に必要な重症室を増設し、4室の重症室を設けました。また、7―2病棟は小児病棟であることに変わりありませんが、6床室を4床室に、4床室を2床室に、2床室を1床室として使用することです、実態に即した運用ができるようになります。

3階は3―1病棟で、循環器科、眼科、皮膚科という組み合わせになります。こうした改修工事が終了すると、各病棟は別表のような診療科の編成になり、より円滑な病床運用が可能になると期待しています。

【病棟再編後の診療科等】

階	病棟	診療科等
8	8-1	呼吸器科、耳鼻咽喉科
7	7-2	小児病棟
	7-1	内科、泌尿器科、人間ドック
6	6-2	脳神経外科、神経内科
	6-1	整形外科
5	5-2	外科
	5-1	消化器科
4	4-2	産科
	4-1	婦人科、女性専用病床
3	3-1	循環器科、眼科、皮膚科
1	1-2	救急

また、これに関連して本館2階の旧内視鏡室の改修工事も行っています。ここには、「安全管理対策室」と「感染対策室」を設置するとともに、安全管理者や感染管理認定看護師をはじめ各種の認定看護師が常駐し、ストーマケアやリンパマッサージなどの「看護外来」を行う計画です。

改修工事終了後、保健所の検査等を経て使用できるのは6月頃になる予定ですが、安全で良質な医療が提供できるより良い環境が整いますので、騒音や振動等ご迷惑をお掛けいたしますが、皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。

帯状疱疹は 怖い病気

麻酔科部長
伊藤 雄策

帯状疱疹になったことがある人に聞くと、「今はもう痛くない」という人と、「いまだに痛い」という人と両方がいます。なかにはもう10年以上前に罹ったのに、「いまだに痛い」という人もいます。

これが、帯状疱疹後神経痛です。

帯状疱疹に罹ったひとでも半数くらいは、皮膚の症状が治ったあとは痛みも残らず、「なんともない病気」なのですが、残りの半数はもう皮膚は治っているのに痛みだけが残るといふ「つらい病気」になってしまっています。

しかも、問題はその残った痛みの程度です。

「なんか違和感がある」とか「ときにぴりぴりとしびれる」という程度の人は、まだいいのです。怖いのは、常にあるビリビリした痛みに加え、「ガーッと差し込む強い痛み」が夜昼かまわず起こり、「夜も眠れない状態」に



なる場合です。しかもそれは何年も続きます。そうなると、精神的にも参ってしまい「うつ病」になったり、「自殺をするほど」とさえいます。帯状疱疹後神経痛はそれほど「怖い病気」と言えます。



われわれのペインクリニック学会でも、常に治療法がいろいろ提案されますが、必ず治る方法はいまだにありません。ブロック治療や内服治療で少しで

も弱い痛みになるようにしていきます。予防法はありませんが、風邪をひいたり、体力や抵抗力が落ちたときに罹りやすいといえます。一般的なことです。規則正しい生活をし、ストレスを避ける」ということが重要になります。特にご高齢の方ほど強い痛みが残りやすいので、周りのかたは帯状疱疹後神経痛のことを頭の片隅にいて常に注意を上げててください。



手術室看護師による 術前訪問について

手術室担当 國分 千亜紀

手術室では、毎日多くの患者さんが手術を受けられています。麻酔方法や手術部位も様々であり、また、入院して翌日に手術を迎える方も多くなっています。初めて手術を受けられる方はもちろん、過去に手術を経験された方にとっても手術は非日常的な場面であり、不安や緊張感を抱いているかと思えます。手術室看護師は、手術前より少しでも患者さんの不安を和らげ、安心して麻酔や手術を受けていただけるように術前訪問を行っています。術前訪問は、手術前日に手術室看護師が患者さんやご家族と面会し、不安や疑問に思っている事に対し説明を行います。また、麻酔方法や手術部位の確認や、手術室入室からの様子をパンフレットで説明しています。その他、手術が始まるまでの間、少しでもリラクセスしていただけるように音楽を流しています。ご希望の音楽がありましたら、お声をおかけください。

今後も、安心・安全な手術を提供し、少しでも不安が和らぐように看護させていただきますので、ご質問などありましたら、遠慮なく手術室看護師にご相談ください。



医療現場における滅菌とは

中央滅菌室・手術室担当

酒井 大志

除菌や殺菌は良く耳にしますが、「滅菌」という言葉は初めて聞く方も多いかも知れません。除菌や殺菌は「ある程度細菌を減らすこと」に対して、滅菌は「全ての微生物・ウイルスを完全に殺滅し、無菌状態を作り出すこと」を意味します。

この滅菌が患者さんを感じから守ることに、とても重要な役割を果たします。菌やウイルスは、あらゆる場所に無数に存在します。医療器材を通しての感染を防ぐためにも、治療に使用されるすべての機械や器材は絶対的に安全でなければなりません。特に生体内の無菌組織の領域に使用される医療器材に対しては、精度の高い無菌性の保証が必要です。

しかし、菌は目には見え、器材を直接検査する時点で無菌性は失われてしまうと、いう難しい特性を持っています。

そこで当院では、患者さんにより安全な医療を提供するために、ガイドラインよりも更に厳しい自主基準や監視システムを設け、感染対策・滅菌保証の向上に取り組んでおります。



ボランティアについて

庶務課 経営調整担当

谷田部 俊晴

当院では、地域に開かれた病院としてボランティアに活動の門戸を広げながら、ひとり一人の患者さんによりきめ細かいサービスを提供して、安心して治療を受けていただくため、院内ボランティア・音楽ボランティアの2種類の受入を行っております。

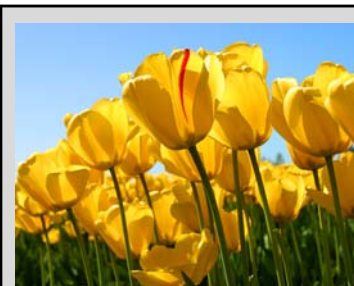
○院内ボランティア

病院内で医師や看護師などと協力して、患者さんが少しでも良い環境のもとで安心して治療を受けることができるように援助活動を行うことです。主な活動としては、受付・会計・薬局窓口の案内、車椅子の貸し出し、高齢者や援助を必要としている患者さんの誘導補助・付き添い、車からの乗降介助などがあります。

○音楽ボランティア

患者さんへのサービス向上の一環として、1階のロビーなどを使って定期的なコンサートやBGM的な演奏などのボランティア活動を行っています。

院内ボランティアは、患者さんの役に立ちたいとの思いで活動しています。もしその活動に何か感じる事がありましたら、活動者の励みにもなりますので、是非直接お声掛け下さい。



新採用医師の紹介

○12月1日付

(小児科)

とばやま ひさこ
鳥羽山 寿子

○1月1日付

(循環器科)

ふくしま よしふみ
福島 理文

(耳鼻咽喉科)

かさい みさと
笠井 美里

編集後記

厳しい寒さの中にもぽかぽかの日差しを感じたり、少し日が伸びたのを感じる日が増えて、春がやって来ましたね。厚手の上着を脱いで薄手の上着に着替える、と、体型が気になる今日この頃。お天気のいい日には、お散歩して春を感じながらシエイプアップ！

院内情報誌編集委員長

尾羽澤 英子